

星が丘公民館 スズカケノキ（プラタナス）等状況調査報告書

1 調査目的

第11回改修検討委員会（書面開催）において、「スズカケノキの傾きにより、今後事故が起こる可能性があるのか等、木の専門家の意見を伺いたい。」という意見が出されたことから、改修検討委員会における議論の参考とするため、樹木医資格を持つ本市職員による調査を実施したもの

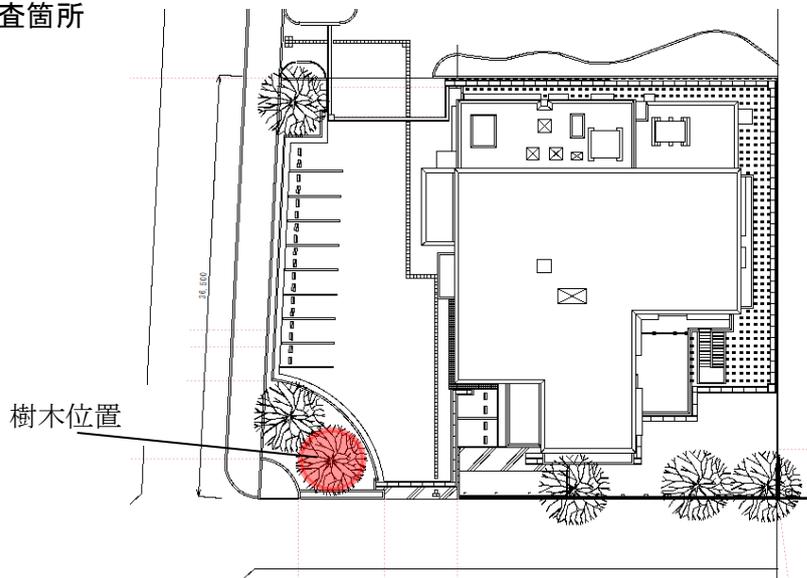
2 調査日

令和4年2月2日（水）

3 対象樹木

スズカケノキ（プラタナス）《樹高 約 10m 幹周 280 cm》ほか

4 調査箇所



5 樹木の概要

当該樹木は、道路と公民館駐車場との間の植栽帯に位置しており、市内に存するスズカケノキとしては高樹齢（推定樹齢約 80 - 90 年）の大径木である。定期的に行われる剪定により、現状は大枝から伸長した小枝が叢生する樹形となっている。



写真 1 樹木全景



写真 2 植栽地の状況

6 樹木の状況

樹勢は健全であり、新梢（小枝）の密度や伸長度合、また幹の肥大生長も正常である。地表から高さ 2m30 cmほどの主幹に、カミキリムシの幼虫による食害痕【写真3】が見られるが小規模であり、樹勢に直接影響を及ぼすものではなく、そのほかに大きな腐朽部位は確認できない。

全体的に北側に傾斜した樹形となっているが、樹木の異常や植栽土壌の変異によるものではなく、古くからこの傾斜した形状で生育して固定されたもので、倒木の危険はないと考える。

（14年前の西暦2008年2月のGoogleストリートビューでも、現在とほぼ同じ角度で傾斜する当該樹木を確認することができるため、傾斜は進行していないようである）【写真4】



写真3 主幹の食害痕



写真4 2008年と2021年の状況
(Googleストリートビューより)

7 今後も樹木を残す場合の対応について

スズカケノキは、長く伸びた枝に大きな葉を多数繁らせることから、風による影響を受けやすい樹木である。風圧を受けての倒木を防止するために定期的な剪定を行い、枝葉を大きく繁茂させないように管理するとよい。

また、樹木直近の南側に歩道を構築する計画については、工事で支障となる根は、太い根であっても1～2本であれば切除しても問題はないと考えるが、切り口（切断面）からの腐朽菌の侵入を防ぐため、確実な防腐処置を実施する必要がある。

同様に、樹高を下げるため、幹を切り詰める等の強剪定を行う場合にも、切り口の防腐処理は確実に行わなければならない。

8 その他樹木の聞き取り内容

（スズカケノキと同じ植栽帯内にある他の樹木について）

- ・ 2本ある桜の木は、老木化（腐食）が進行している。道路側の桜の木の方が、より老木化して幹が一部空洞化している可能性がある。
- ・ メタセコイヤは元気である。メタセコイヤは成長が早く、今後、スズカケノキの大きさを追い抜くと思われる。

（現駐輪場側の樹木の調査結果）

- ・ 桜の木は老木化が進行しており、一部の枝は腐食がひどい状態である。
- ・ いちょうの木は寿命が1000年程度あり、まだまだ元気である。

以上